

第1号議案

令和6年度 事業報告

1. 通 常 総 会

第65回通常総会は、令和6年5月24日（金）アルカディア市ヶ谷において開催した。出席者は委任状とも1,346名で、定款第17条に規定する定足数に達した。

定款第15条の定めにより、本総会の議長は会長がこれにあたるとしており、下村会長を議長とし、議事の審議にあたった。

(1) 議 事

議事録署名人については、定款第19条により、議長および議長が指名する出席者2名以上としており、出席正会員の中から左東有次氏および岸本一藏氏の2名が指名され、令和5年度事業報告、同収支決算報告、役員改選はいずれも原案どおり承認議決された。

また、令和6年度事業計画、同収支予算についての報告があり、いずれも了承された。

(2) 名誉会員推挙

阿波野昌幸殿、河瀬日吉殿、睦好宏史殿、横田 勉殿が名誉会員に推挙された。

(3) プレストレストコンクリート工学会賞授与

令和5年度（第51回）授賞は、論文賞2件、作品賞6件、技術開発賞2件、施工技術賞1件の計11件である。

○ 論文賞

- | | |
|---|--|
| ● 広帯域超音波法を用いた新たなグラウト充填評価方法
(会誌第65巻5号) | 吉 武 勇 殿
木 下 尚 宜 殿
迫 美 乃 殿
福 島 邦 治 殿 |
| ● 塩害腐食が進行した4径間連続PC箱桁橋の載荷試験
(第32回プレストレストコンクリートの発展に
関するシンポジウム論文集) | 田 中 泰 司 殿
寺 尾 静 夏 殿
登 石 清 隆 殿 |

○ 作品賞

(土木部門)

- | |
|--|
| ● 北陸新幹線九頭竜川橋梁・福井県道新九頭竜橋
(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局 殿
福井県福井土木事務所 殿 |
|--|

	八千代エンジニアリング(株)	殿
	(株)構造設計研究所	殿
	鉄建・安部日鋼・清水組JV	殿
	(株)日本ピーエス	殿
● 下郷大橋	福島県南会津建設事務所	殿
(建築部門)		
● 西都市庁舎	西都市	殿
	(株)久米設計	殿
	(株)鴻池組	殿
	大和開発(株)	殿
	(有)宮内建設	殿
	オリエンタル白石(株)	殿
● 彦根総合スポーツ公園陸上競技場 (平和堂HATO スタジアム)	滋賀県	殿
	(株)佐藤総合計画	殿
	鹿島建設(株)	殿
	(株)笹川組	殿
	(株)ピーエス三菱	殿
(改築・改修部門)		
● 阿口大橋床版取替	西日本高速道路(株)	殿
	三井住友建設(株)	殿
● 東名阪道弥富高架橋の拡幅を伴う床版リニューアル	中日本高速道路(株) 名古屋支社	殿
	(株)大林組	殿
○ 技術開発賞		
● コンクリート締固めAR管理システム	オリエンタル白石(株)	殿
	(株)イクシス	殿
● プレストレスト木質部材の開発	日本大学理工学部 福井 剛	殿
	(株)松田平田設計 森田 明	殿
	(株)建研	殿
	藤寿産業(株)	殿

○ 施工技術賞

- 池島川橋（上り線）床版取替工事

(株)富士ピー・エス 殿

以上の賞について、工学会賞選考委員会阿波野昌幸委員長より選考結果が報告された。下村会長より、論文賞，作品賞，技術開発賞，施工技術賞受賞者に賞状と副賞として記念盾がそれぞれ授与された。

2. 理 事 会

通常理事会を10回（8月，2月を除く毎月），臨時理事会を1回（5月）開催した。

議事録要旨は会誌の工学会記事欄に記載しており，省略する。

3. 会誌等の発行

会誌は隔月に6回計20,500部を発行した。

4. 委 員 会

【常設委員会】

(1) 総務委員会

総務委員会を5回（4月，7月，12月，1月，3月）開催した。4月は令和5年度事業報告案ならびに同収支決算案を審議した。7月は組織図，役員の職務分担案，各委員会規程および各委員会名簿の確認，ホームページリニューアルWG活動報告を行った。12月は役員候補者，名誉会員候補者の確認を行い，1月は役員候補者，名誉会員候補者の検討，ホームページリニューアルWG活動報告を行った。3月は役員人事，名誉会員推挙，令和7年度事業計画案，同収支予算案の審議，ホームページリニューアルWG活動報告を行った。

(2) プレストレストコンクリート工学会賞選考委員会

第52回（令和6年度）プレストレストコンクリート工学会賞選考のため，2回の委員会を開催した。令和7年3月31日（月）開催の第2回目の委員会の討議を経て，論文賞1件，作品賞7件（土木部門2件，建築部門5件），施工技術賞3件を受賞候補に選出し，これを4月度理事会に答申した。

(3) 会誌編集委員会

委員会を11回（8月を除く毎月），各小委員会，部会およびWGを16回開催した。会誌「プレストレストコンクリート」を年度6回発行した。第66巻4号，6号，第67巻2号は特集号とし，それぞれ「建築特集」，「プレキャスト技術の推進・活用に向けた取組み」，「PC技術を用いた防災・減災」を企画特集した。

(4) シンポジウム実行委員会

委員会を6回，総務・広報・学術・現地WGを合計9回開催し，新潟県新潟市の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）で開催する第33回シンポジウムの企画と運営を行った。

また、令和8年の第35回シンポジウムの開催を大分県別府市で行うことを決定した。令和7年1月からは、福井県福井市のフェニックス・プラザ（福井市民福祉会館）で開催する第34回シンポジウムの準備に取りかかった。

(5) P Cアーカイブス委員会

委員会を1回、幹事会を2回、收集整理・原稿企画・システム検討WGおよび合同WGを合計4回開催した。幹事会では、今年度の活動報告、来年度の活動方針および各WGの活動計画について議論を行い、活動実施に向けた体制を構築してきた。システム検討WGは、ホームページ「アーカイブス」に、アーカイブ的資料閲覧、キーワード検索機能、閲覧者からアーカイブの情報提供のお願いを公開した。また、会員ログイン画面に「P Cアーカイブス会員特典コーナー」を追加し、P C構造物設計図集、P C技術講習会テキストバックナンバーなど絶版資料の閲覧を可能とした。收集整理WGは、黎明期に建設された海外のP C橋30橋を対象に情報収集を行い、21橋については資料収集ができた。原稿企画WGは、今年度のP C技術講習会テキストの執筆、次年度P C技術講習会の執筆担当、講演題目や黎明期に建てられた建築物について会誌への投稿を検討した。また、名誉会員の寄稿文を取りまとめ会誌へ短期連載として掲載することを検討するとともに、名誉会員インタビュー対応事務局を組織し、インタビューの実施と原稿化を進めた。

(6) P C技術規準委員会

委員会を2回、幹事会を4回開催し、講習会開催方法の検討、新たな小委員会の立ち上げなどについて検討を行った。令和6年度には「プレキャストP C床版接合部の性能評価小委員会」、「プレキャストセグメント橋継ぎ目部の性能評価小委員会」を新たに設立した。また、土木学会コンクリート標準示方書（以下、示方書）の改訂に伴い、「コンクリート構造技術規準 一性能創造による設計・施工・保全一」の示方書に準拠した記述について照査を行い、結果を公表した。

1) P C構造物の3次元解析による部材設計ガイドライン作成小委員会

委員会を4回、幹事会を2回開催し、P C構造物の3次元解析事例の情報共有とガイドライン構成案について検討した。

2) P C技術を用いた構造物の低炭素社会への貢献に関する検討小委員会

委員会を3回、各WGを5回開催し、低炭素社会へ貢献するP C技術事例の情報共有と委員会活動成果の公表および報告書作成方針を検討し、委員会を終了した。

3) プレキャストP C床版接合部の性能評価小委員会

幹事会を1回開催し、委員会の活動方針および進め方、各工法の整理とWG分け、成果報告の方法等を検討した。

(7) P C 鋼材委員会

委員会を1回開催し、海外におけるP C 構造物のP C 鋼材腐食事例、国内のP C 鋼材仕様の変遷、海洋環境下に暴露した連続繊維補強材の耐久性について紹介ならびに討議を行った。また、張力モニタリングが可能なP C 鋼材について、その評価試験や適用状況に関して報告がなされた。加えて、P C 鋼材の海外規準に関わる*fib* Commission-5での活動内容が紹介された。

(8) 公募研究委員会

令和6年度は、新規の研究課題の応募はなかった。

(9) P C 技術講習会委員会

委員会を2回開催した。令和6年6月に開催した第51回P C 技術講習会（オンライン形式）の受講者アンケート結果を踏まえて審議を行い、次回第52回P C 技術講習会のプログラムを決定した。有識者による特別講演2題とテキスト講演題目5題を設定した。

(10) P C 技士委員会

委員会を1回、各小委員会を6回開催した。受験者および再登録者を対象にオンライン（オンデマンド動画配信）によるP C 技士講習を実施した。令和6年10月20日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に第32回プレストレストコンクリート技士試験を実施し、12月12日に可否の判定を行った。

(11) コンクリート構造診断士委員会

委員会を1回、各小委員会を11回開催した。受験者および更新登録者を対象にeラーニングによるコンクリート構造診断技術講習を実施した。令和6年7月14日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に第17回コンクリート構造診断士試験を実施し、10月4日に可否の判定を行った。

(12) 国際委員会

「P C 工学会の国際化を進めるための企画・提言を行うこと、ならびに日本のP C 技術を海外へ情報発信すること」を目的に、令和6年度は、委員会を3回開催した。委員会活動は、*fib* の総会、Technical Council, Presidium への参加、*fib* の各種委員会（Commission ならびにそれらの下のTask Group）への参加、*fib* コングレス 2030準備委員会活動、P C 工学会英文ホームページの更新、P C シンポジウムの海外からの特別講演の企画および運営、日米橋梁技術者会議の開催、P C 技術講習会の国際関係のテキスト執筆および講演を行った。

【公募研究委員会】

(1) 洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施検討委員会

本委員会は、令和5年3月に国土交通省より公表された「コンクリート製浮体式洋上風力

発電施設の設計施工ガイドライン」に基づき、実際にコンクリート製浮体を実現するための製造システムや製品供給体制などの技術的課題を検討することを目的として、令和5年度より活動を開始した。令和6年度は、委員会を2回開催し、洋上風力発電に用いるプレストレストコンクリート製浮体の実施事例や研究報告を情報共有し、勉強会や見学会実施について議論した。

(2) 「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」続編 編集委員会

本委員会は、2002年に発刊した「歴史的にみたプレストレストコンクリート建築と技術」の続編の発刊を目的として、令和5年度より活動を開始した。令和6年度は、委員会を1回開催し、2000年以降の代表的なP C建築物や技術の変遷を収集整理し、原稿作成を行った。

【受託研究委員会】

(1) 既設ポストテンション橋のP C鋼材調査および補修・補強に関する検討委員会

本委員会は、本工学会が平成28年に制定した「既設ポストテンション橋のP C鋼材調査および補修・補強指針(案)」の後、実橋での環境・P Cグラウト充填状況等の調査が進み、P C鋼材腐食促進試験等も実施され、各社からP Cグラウト再注入工法が提案されていることから、統一的な指針の制定を目的として、(株)高速道路総合技術研究所の委託を受けて、令和6年3月の理事会で設立が承認された。令和6年度は、委員会を2回、非破壊調査、P Cグラウト再注入および指針作成の各WGを6回開催し、情報収集、課題の抽出、活動方針等について検討した。

5. 講習会等事業

(1) 第51回P C技術講習会

第51回P C技術講習会を令和6年6月3日(月)から6月24日(月)の22日間にわたりオンライン(オンデマンド動画配信)で開催した。受講者は2,960名で、1,073名からWebアンケートの回答を得た。

(2) プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム

令和6年10月17日(木)・18日(金)の2日間にわたり、新潟県新潟市の朱鷺メッセにおいて、「第33回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム」を開催した。新潟大学日本酒学センター副センター長准教授の岸 保行氏、SK Lee and Associates, Inc.のDr. Seung-Kyoung Lee氏による特別講演と、177題の論文、報告の発表が行われ、優秀講演賞20名を表彰した。また、39団体による技術展示の実施、ワークショップでは令和6年能登半島地震に関する橋梁や地盤構造物の被害についての基調講演およびディスカッションが行われた。参加者は730名で、法人正会員、賛助会員のほか、関係諸団体を合わせて51団体から後援があった。

6. 資格認定事業

(1) プレストレストコンクリート技士制度

1) プレストレストコンクリート技士試験講習会

令和6年度のプレストレストコンクリート技士試験講習会を、令和6年9月2日（月）から9月17日（火）の期間、オンライン（オンデマンド動画配信）で開催した。受講者は、再登録研修受講者と合わせて合計136名であった。

2) プレストレストコンクリート技士試験

令和6年度のプレストレストコンクリート技士試験を、令和6年10月20日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は276名で、試験の合格者は85名であり、会誌第67巻1号およびホームページに掲載発表した。

3) プレストレストコンクリート技士登録

令和6年度標記試験合格者の登録者は85名で、登録更新者は761名（更新対象者は960名）であった。また、再登録者が55名あり、令和6年度のプレストレストコンクリート技士登録者は、合計901名となった。その結果、令和6年度末の有資格者（登録者）は4,664名である。

(2) コンクリート構造診断士制度

1) コンクリート構造診断技術講習

令和6年度のコンクリート構造診断士試験に先立ち、任意受講のコンクリート構造診断技術講習（eラーニング）を、令和6年3月1日（金）から7月12日（金）の期間、実施した。受講申込者は、106名で、受講修了者は93名であった。

2) コンクリート構造診断士試験

令和6年度のコンクリート構造診断士試験を、令和6年7月14日（日）に東京、大阪、福岡の3会場において一斉に実施した。

受験申込者は177名で、試験の合格者は60名であり、会誌66巻6号およびホームページに掲載発表した。

3) コンクリート構造診断士登録

令和6年度標記試験合格者の登録者は60名で、登録更新者は298名（更新対象者は345名）であった。また、再登録者が7名あり、令和6年度のコンクリート構造診断士登録者は、合計365名となった。その結果、令和6年度末の有資格者（登録者）は1,404名である。

○事業報告に係る附属明細書について

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

令和7年4月

公益社団法人 プレストレストコンクリート工学会